

2026
(令和8年)

6

No.1208

IIDA CITY
広報

いいだ



特集

環境文化都市いいだ30周年 ～これまでも、これからも～

環境文化都市の実現に向けて

市が目指す都市像として「環境文化都市」を掲げてから今年で30年を迎えました。市民、事業者が協働しながら、これからも環境文化都市の実現に向けてあゆみを進めていきます。

環境文化都市 いいだ30th

～これまでも、これからも～

問い合わせ：ゼロカーボンシティ推進課 気候変動対策係 内線5471

1996年（平成8年）に市の目指す都市像として「環境文化都市」を掲げてから、今年で30年の節目を迎えました。今回の特集は6月の環境月間に合わせ、「環境文化都市」の理念やこれまでのあゆみを振り返ります。

環境文化都市に込められた想い

◀ 目指す都市像 ～環境文化都市の誕生～ ▶

都市像としての環境文化都市は、1996年に策定した市の第4次基本構想基本計画「人も自然も美しく、輝くまち飯田 環境文化都市をめざして」として、初めて登場しました。

そこに描かれている都市像は、「人の営みと自然が調和し、文化の質が高く、交流もさかんで、いきいきと豊かな暮らしができるまち飯田」。言い換えれば、先人たちが守り育ててきた飯田らしさを基盤として、今ますます重要性が高まっている環境の取り組みを、これからも私たちにとって当たり前の文化として高めていく都市を目指す、というものでした。これは、世界の地球温暖化対策の歴史的な転換点となった京都議定書（1997年採択）より前の取り組みでした。



◀ 理念を未来へ引き継ぐ ～環境文化都市宣言～ ▶

2007年3月には、市民、行政が協働で検討した「環境文化都市宣言」が市議会で議決されました。この宣言は、時代が移り変わっても私たちが掲げた環境文化都市の理念を絶やしてはいけないとの想いから誕生しました。

宣言の全文は市ウェブサイトに掲載しています。ご覧ください。▶



COLUMN

01

環境文化都市いいだ30周年ロゴを作成しました

環境文化都市
いいだ30th

人と文化、自然と暮らしがゆるやかにつながり続けるまち「環境文化都市いいだ」として、やわらかな線で飯田らしい循環と広がり表現しています。環境と文化を暮らしの中で編み直していく都市像をイメージし、要素同士がほどけずにつながる線とリズムで、飯田が育ててきた関係性（人・地域・自然・営み）の連続性と、未来に向けて“つながり”を継承するデザインとなっています。

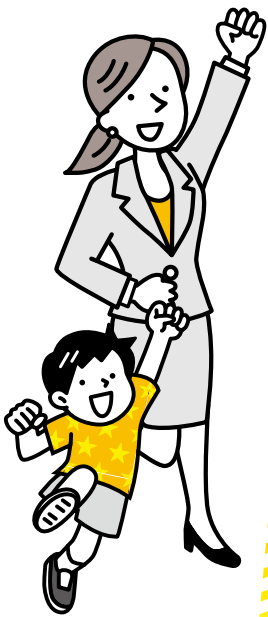
環境文化都市いいだ30周年のあゆみ

環境文化都市の理念が誕生してから今日まで、地域・行政が一体となってさまざまな取り組みが進められてきました。それら一つひとつの積み重ねが「環境文化都市いいだ」の輪郭をつくり、「環境モデル都市」選定や「2050年いいだゼロカーボンシティ宣言」、「脱炭素先行地域」選定へとつながってきました。



環境文化都市の実現へ


これからもみんなで!



- 2022(令和4)年 脱炭素先行地域選定**
- 2021(令和3)年 2050年いいだゼロカーボンシティ宣言**
- 2014(平成26)年 ポイ捨て条例制定、南アルプスユネスコエコパーク登録
- 2013(平成25)年 地域環境権条例制定、地域主導の再エネ事業創出
- 2011(平成23)年 ラウンドアバウトの導入
- 2010(平成22)年 環境首都コンテスト「明日の環境首都賞」受賞
- 2009(平成21)年 環境モデル都市選定**、レジ袋有料化、LED防犯灯の開発・設置
- 2008(平成20)年 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク登録
- 2007(平成19)年 環境文化都市宣言**
- 2004(平成16)年 平成のまほろば事業市民共同発電開始
- 2002(平成14)年 公共施設へのペレットストーブ設置開始
- 1999(平成11)年 ごみ処理費用負担制度導入
- 1997(平成9)年 太陽光発電補助開始、地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会(現:地域ぐるみ環境ISO研究会)発足
- 1996(平成8)年 目指す都市像「環境文化都市」、環境基本条例制定、21'いいだ環境プラン策定**


全ては積み重ね

3 中部電力(株)との共同による「地域マイクログリッド」構築(2025年～)




2 地域環境権条例を活用した取り組み(2013年～)

竜丘保育園の園庭芝生化の様子



1 太陽光発電の黎明期に全国に先んじて取り組んだ「市民共同発電」(2004年～)



行動する未来はすごい

うごくる。

環境文化都市づくりプラットフォーム

環境文化都市の実現に向けて市民・事業者・行政などが協働して取り組みを進めているプラットフォームです。

環境文化都市の礎



身近な自然に触れる水生生物観察会



飯田脱炭素推進協議会
エコドライブ10000人プロジェクト

30年にわたり環境文化都市としての取り組みを進めてくることができた背景には、古くから自然との調和・共生や人とのつながりを大切にしてきた当地域の暮らしや自治の礎があります。それは現在でもまちづくり委員会や公民館の活動といった形で日常的に展開されており、ごみの管理や環境美化活動などによって地域の美しい景観がつけられ、身近な暮らしを随所で支えています。

市民のみなさんが、自分でやる（ムトス）、みんなでやる（結）ことを通して互いに価値観を共有し、時代や社会が移り変わっても、そこからまた新たな取り組みを生み出し挑戦していく風土を育てています。

この積み上げが、環境文化都市の30年を形づくってきました。環境を特別なこととして扱うのではなく、「自分たちの地域を自分たちでつくる」という日々の取り組みの中にこそ、環境文化都市の理念が息づいています。



みんなで取り組むごみゼロ運動

地域の日常的な活動が礎となって私たちの暮らす環境がつけられ、その姿がまた、未来を担うこどもたちの価値観や考え方を育てています。

COLUMN



知っていますか？ レジ袋削減に向けた取り組み

今では当たり前になったレジ袋の有料化も、実は全国に先駆け、平成20年から当地域の消費者・事業者・行政が協働して「南信州レジ袋削減推進協議会」を立ち上げ取り組んできました。当時の人たちの先見的な想いが、今の「当たり前」をつくってきました。



環境文化都市の未来へ向けて



飯田市長 佐藤 健

これからの時代、環境は単に配慮する対象ではなく、豊かな経済や暮らしを生み出す「強み」です。世界情勢が不安定化し、見通しが効かない不確実な時代にあって、環境文化都市のこれまでの積み上げは、地域の未来を切り開く力です。

美しい里山や街並みが、日々の暮らしに潤いをもたらしている情景。環境への取り組みが新しい産業や人材を呼び込み、活気にあふれる社会。豊かな自然からもたらされる再生可能エネルギーを域産域消する暮らしが根付く地域。

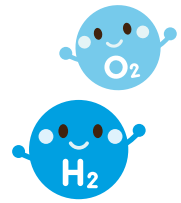
そんな姿を紡ぎ出していく営みを通して、環境文化都市の理念が一人ひとりの心に共通の価値観として息づき、地域の誇りとなる飯田市をみんなで目指していきましょう。

COLUMN

03

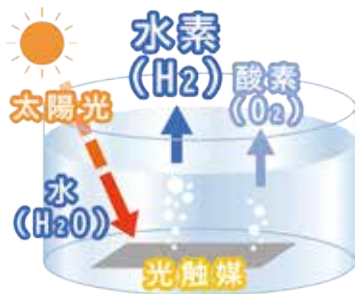
水素社会への挑戦

市では、環境文化都市の理念を未来につなげていく新たな取り組みの一つとして、信州大学との連携により水素社会実現に向けてチャレンジを進めています。水素は、電気や熱エネルギーに変換して利用することができ、使用時には二酸化炭素を排出せず、貯蔵や運搬も可能なことから、新たなエネルギーとして注目を集めています。



信州大学グリーン水素研究の紹介

信州大学がエス・バードを拠点に研究している水素技術は、光触媒を用いて水と太陽光のみで水素を生成する技術です。当地域に豊富に存在する資源から生成でき、使う時だけでなく、つくる時にも二酸化炭素を一切排出しない、クリーンかつ低コストな水素生成が可能となります。



2050年「水素のあるまち・飯田」のイメージ

市では、水素の実証タウンとして信州大学に協力し、水素社会の実現に向かって取り組みを進めています。2025年12月には飯田市水素利活用ビジョンを策定し、環境にやさしい飯田産水素の利活用によって実現したい5つのまちの姿を描きました。



水素で目指すまちの姿

- 1 エネルギーを域産域消できるまち
- 2 脱炭素化を実現するまち
- 3 産業の振興・地域内の経済循環が進むまち
- 4 リニア駅周辺を中心に新技術を社会実装するまち
- 5 災害などへのレジリエンス(※)が強化されたまち

※レジリエンスとは…
「弾力性」「はね返し」「回復力」の意味

利活用ビジョンの詳細はこちら▶



環境文化都市30年は1つの大きな節目であり、通過点です。

これまでも、これからも、先人が築き育んできた環境文化都市を、
今度は私たちが日々の生活の中から紡ぎ出し、未来の飯田へ、
みんなでつなげていきましょう。



花と緑と陽光の中を歩く 第40回飯田やまびこマーチ



天竜川和船下りコース



ニッチローさんによる出発式

40回大会を記念して「天竜川和船下りコース」(20km)を新設し、40kmコースのルートに天龍峡のそらさんぽを追加、主会場(中央公園)での催しを増やすなど、例年とは違った特別な大会となりました。

韓国原州市や北海道北見市など海外・県外からも多くの方が訪れ、春の南信州を楽しみました。

韓国のウォーキング大会と 友好連携を締結



李 康玉会長(右から3人目)

飯田やまびこマーチは、韓国の原州(ウォンジュ)国際ウォーキング大会と大会友好連携を締結し、大韓ウォーキング連盟の李 康玉(イ・ガンオク)会長をやまびこマーチ名誉顧問に任命しました。

オーケストラと友に音楽祭 クラシック音楽を楽しむ



名曲コンサート(5月6日)

5月3日から6日の4日間開催。名古屋フィルハーモニー交響楽団による「名曲コンサート」や商業施設など身近な場所で音楽を楽しむ「そよ風☆コンサート」などを多くの方が楽しみました。

市公式SNSでも市内の出来事やイベントなどを配信しています。
ぜひご覧ください。

QRを
スキャン



Instagram

花と緑のまちづくりを推進 第50回飯田都市緑化祭



50回記念のくす玉割り

まちの緑化や緑地の保全を推進し、花や緑に親んでもらう機会として続けてきた緑化祭が50回目を迎えました。中央公園に特別に造られた「お庭」では、飯田女子高校による呈茶などがありました。

ご当地キャラクター大集合 ぽおの日曜日



いいだ人形劇フェスタの「ぽお」をはじめ、下條村の「からみん」や喬木村の「ベリー&ゴー」、木祖村の「いっせー」など13組のキャラクターが集合し、パフォーマンスなどで盛り上がりました。

野底山森林公園さくら祭り 体験して食べて遊ぶ



木工体験教室

木工や駒打ちの体験、地元団体や高校生らによる飲食の出店、ミニ御柱引きやダンスなどのパフォーマンス、環境やリニアに関する展示など、さまざまな催しで賑わいました。

ゴールデンウィークのお楽しみ おもしろ科学大実験



南信州飯田おもしろ科学工房による「おもしろ科学大実験」がかざこし子どもの森公園であり、飯田OIDE長姫高校のテックレンジャーショーやスライムを使ったワークショップなどが行われました。

現代版 養生訓

産婦人科
池田 枝里 医師

早期母子接触から始まる愛着形成と、これからの 子育てを支える産後ケア

出産はゴールではなく、子育てのスタートです。

生まれたばかりの赤ちゃんをご家族が安心して新しい生活を始めるためには、出生直後からの関わりがとて重要です。

その中で周産期スタッフが大切にしているのが「早期母子接触、いわゆるカンガルーケア」です。

生まれたばかりの赤ちゃんをお母さんの胸に抱き、肌と肌を触れ合わせて過ごすことで、赤ちゃんは安心し、呼吸や体温も安定しやすくなります。さらに、お母さんだけでなくご家族も関わることで、赤ちゃんとのつながりを実感し、愛着形成の重要な一歩となります。

「産後ケア」とは、出産後のお母さんの心身の健康をサポートする取り組みです。専門スタッフによる体調管理や休養の支援、授乳や沐浴のサポートに加え、不安や悩みに寄り添う相談対応など、安心して子育てができるように幅広い支援を提供しています。また、こうした支援は出産直後に限らず、育児をはじめてからの時期や、お産後しばらく経過し不安や疲れが出てくる時期、さらには1歳前後までの育児期間においても利

用していただきたいと考えています。

宿泊型や日帰り（デイケア）型など、状況に応じたサービスを利用することが可能です。

こうした大切な時間を支えるためには、家族がともに過ごせる環境が欠かせません。現在、当院では出産直後からご家族も育児に参加できる「家族ケアルーム」の整備を目指しています。このような環境が整うことで、赤ちゃんをご家族の絆がより深まり、安心して子育てを始められる基盤づくりにつながると考えています。

近年、このような産後支援へのニーズは地域でも高まっています。そのため当院では、プライバシーが確保され、ご家族とともに滞在できる「家族ケアルーム」の整備を進めていく必要があります。

現在、より質の高い周産期ケアの実現に向けて、クラウドファンディングを実施しております。詳細は掲載のQRコードからご確認いただけます。

本取り組みの趣旨にご理解を賜り、あたたかいご支援をお寄せいただけますよう、心よりお願い申し上げます。



飯田市立病院 〒395-8502 飯田市八幡町438 ☎0265(21)1255

Vol.61

木は文化

市長室から

市長
佐藤
健

2月末に行われたリニア駅前広場に整備する木造大屋根に関する講演会。飯田高校卒業生である北川原温東京藝術大学名誉教授のお話の中で「木は材料ではなく、文化である」という言葉に深い感銘を受けました。

私はこれまで、地元産の木材が使われる、地元の設計士の皆さんがチームを組んで実施設計をする、地元の工務店が施工する、といったことに木造大屋根の意義を見出していました（もちろんそれぞれ意義深いことですが）、この地域の豊かな森林資源や紡がれてきた文化を象徴・体現するのが木造大屋根であり、そのことが市民の皆さんの誇りと愛着につながるのだ、という北川原さんのお話に大いに得心したことでした。

心配していた「お金」のことも、構造計算を

担当した稲山正弘東京大学教授によれば、「一般住宅用の流通材と金具を使うように設計されているので、それほど高くはなりません」とのこと。また、構造材が雨に濡れないように設計されているので、定期的なメンテナンスをすれば（法隆寺のように）長持ちすることも教えていただきました。

稲山さんは「りんごの樹の構造が今回の大屋根の構造になっている。まさにシンボル。飯田の文化的な名所になると確信している」とも。

「文化がこれからの経済を動かしていく」という北川原さんの言葉も含め、示唆に富む言葉をたくさん聴くことができた講演会でした。

※北川原さんのご講演と稲山さんも交えたパネルディスカッションの様子は動画でご覧いただけます。

